

基 調 講 演

テーマ：外力の作用が卓越する海岸・港湾構造物の維持管理

講 師：鳥取大学大学院工学研究科 准教授 太田 隆夫



略 歴

平成 3 年 3 月 鳥取大学大学院工学研究科海洋土木工学専攻修了
平成 3 年 4 月 鳥取大学助手工学部社会開発システム工学科
平成14年8月～平成15年8月 アメリカ合衆国デラウェア大学客員研究員
平成20年 4 月 鳥取大学助教大学院工学研究科社会基盤工学専攻
平成22年 4 月 鳥取大学准教授大学院工学研究科社会基盤工学専攻
現在に至る

研究活動・著書他

主要な研究分野は海岸工学。

これまでの主な研究：

- ・海岸保全施設の被災変形と性能変化に関する研究
- ・短期波浪統計および波候統計に関する研究
- ・ニューラルネットワーク等を用いた波浪予測に関する研究

講演概要等

社会基盤施設には、ある水準以上の性能を供用期間にわたって保持することが求められます。しかし、経年変化や外力の作用による損傷（被災）で性能の劣化が生じることから、適切な維持管理を行う必要があります。また、多数の社会基盤施設の老朽化に対する補修・更新費用の増大が予想されており、その観点からも効率的な維持管理計画が重要です。本講演では、海岸・港湾構造物のうち、波の作用による損傷が主となる消波工を対象に、設計時から供用期間中までの維持管理に関わる考え方として、ライフサイクルコスト（LCC）を最小化する消波材質量の算定、消波工の断面変形に伴う性能の変化、補修費を最小化する保全方策についてお話しいたします。